

(跡 戦 海 上)



上海北停車場、鐵路管理局の殘骸

間北・路傍に築かれた土嚢トーチカ



(海上戦跡)

(跡 戦 海 上)

閩北・家屋内の塹壕、支那軍苦戦の跡



市政府の残骸



(跡 戦 海 上)

閩北、商務印書館



(跡戰海上)

江灣鎮競馬場



(跡 戰 海 上)

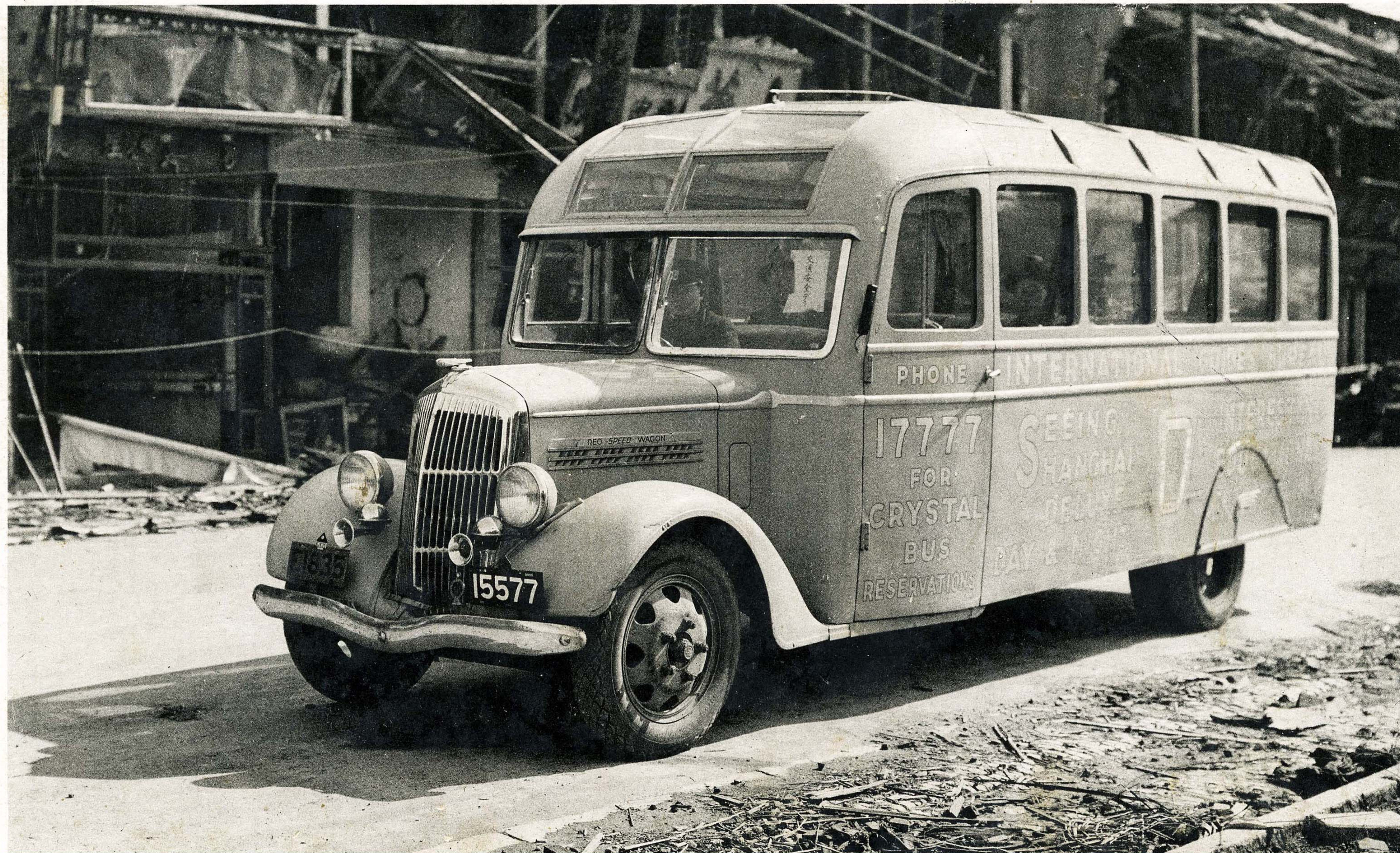
閘北、上海北停車場



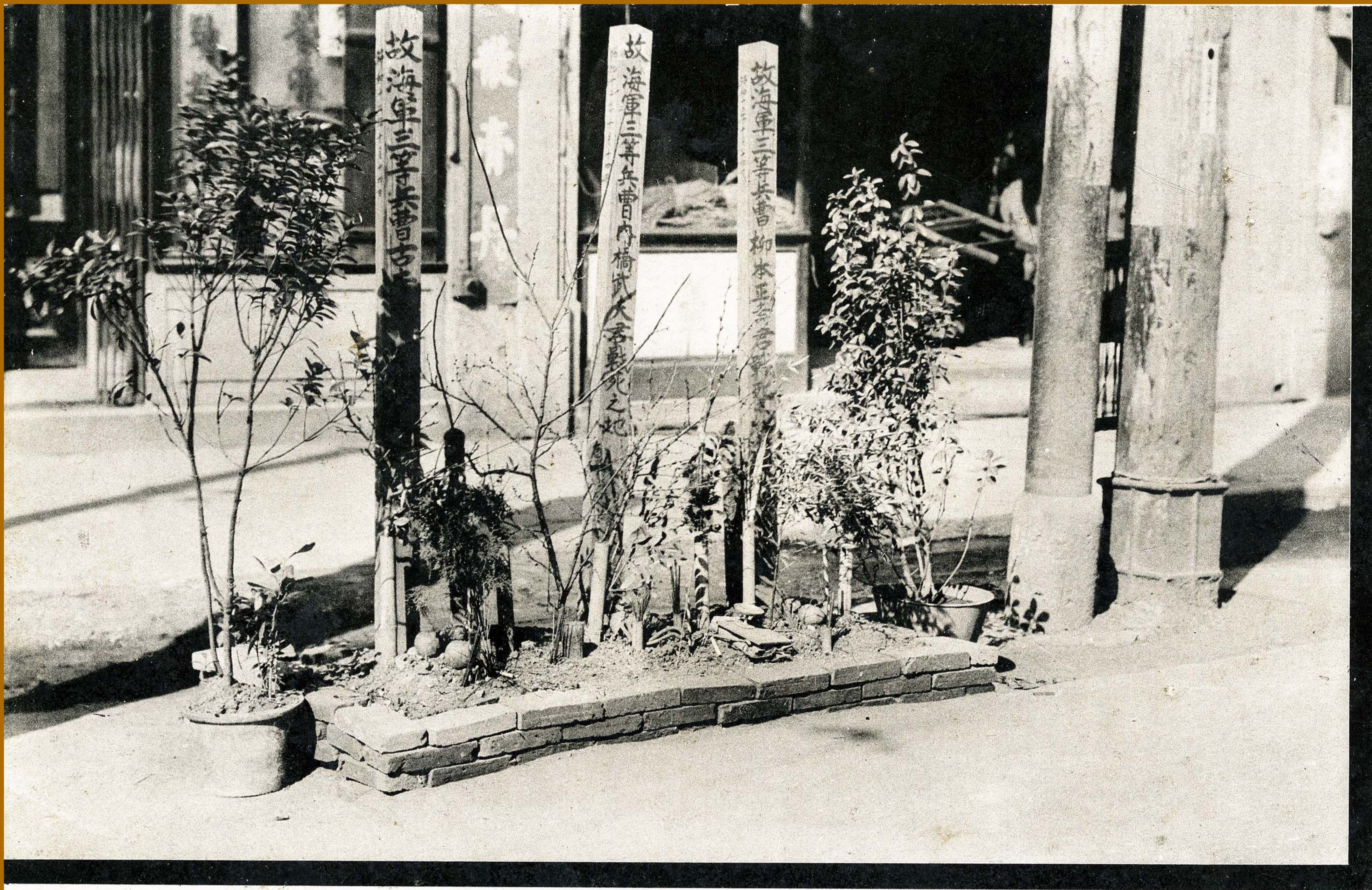
(跡戰海上)

(跡 戰 海 上)

戰跡視察乗合自動車



市街戦の入柱、
北四川路に於ける我英靈碑の一部

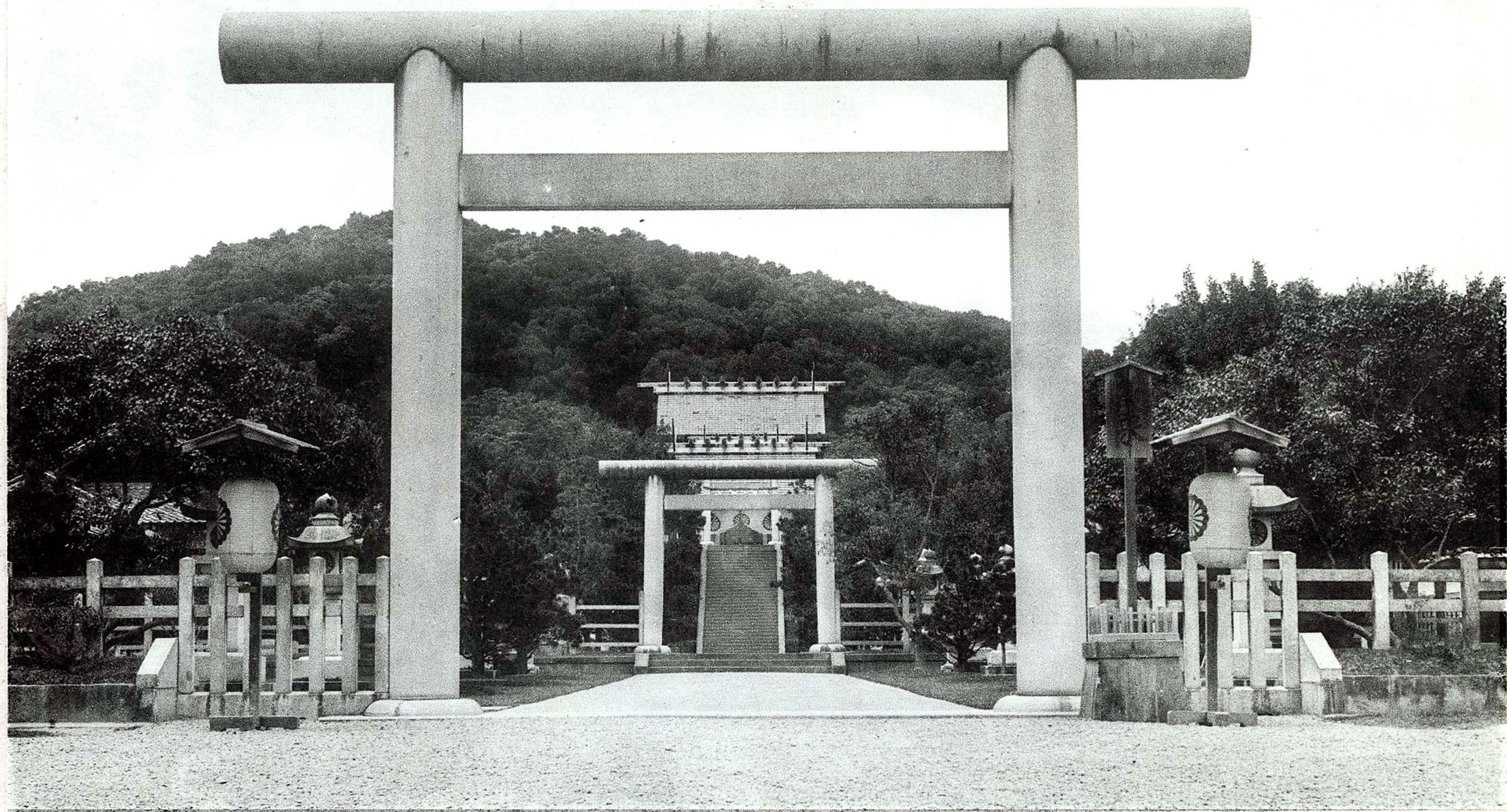


(跡 戦 海 上)

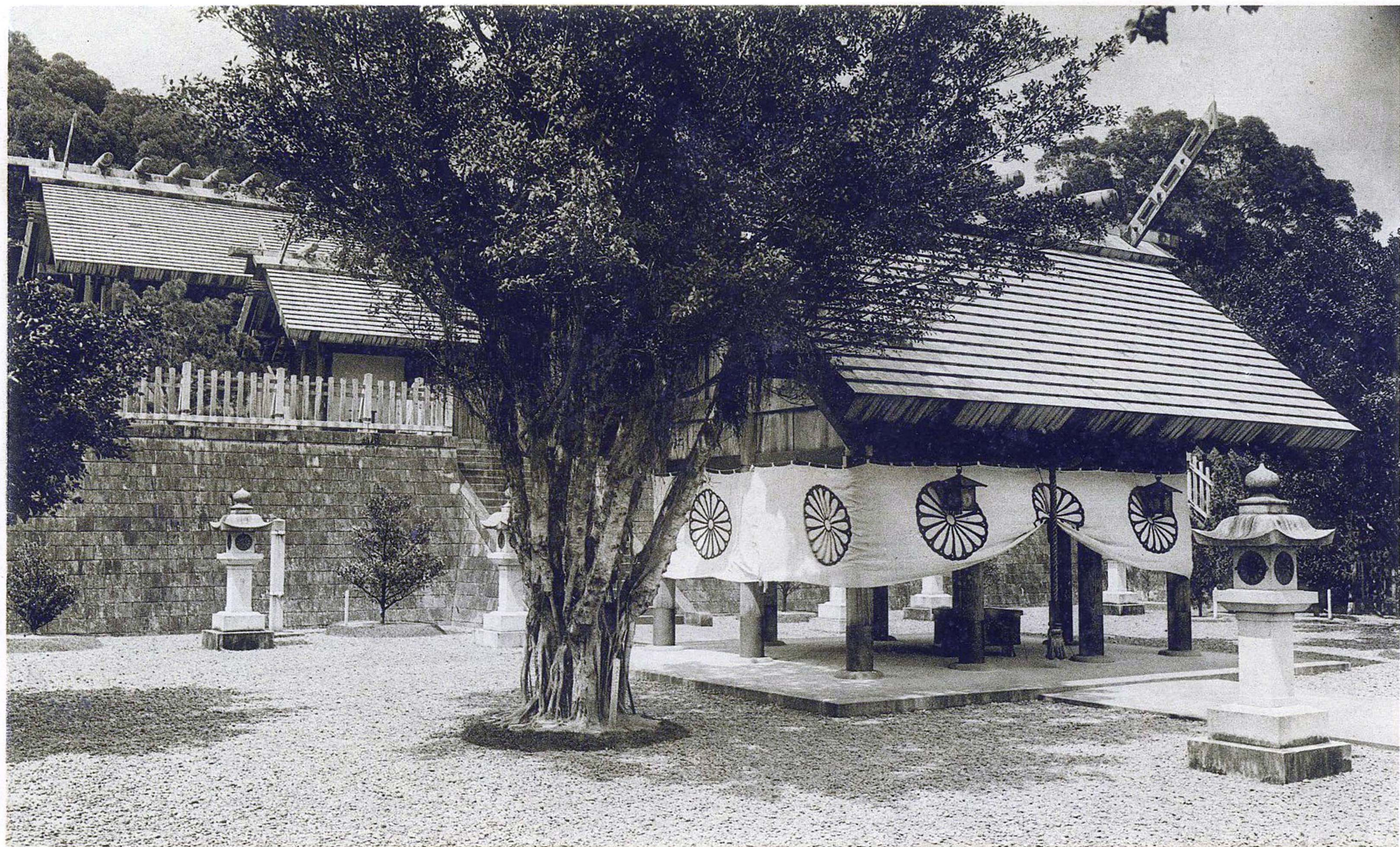
郵便はかき

軍事郵便

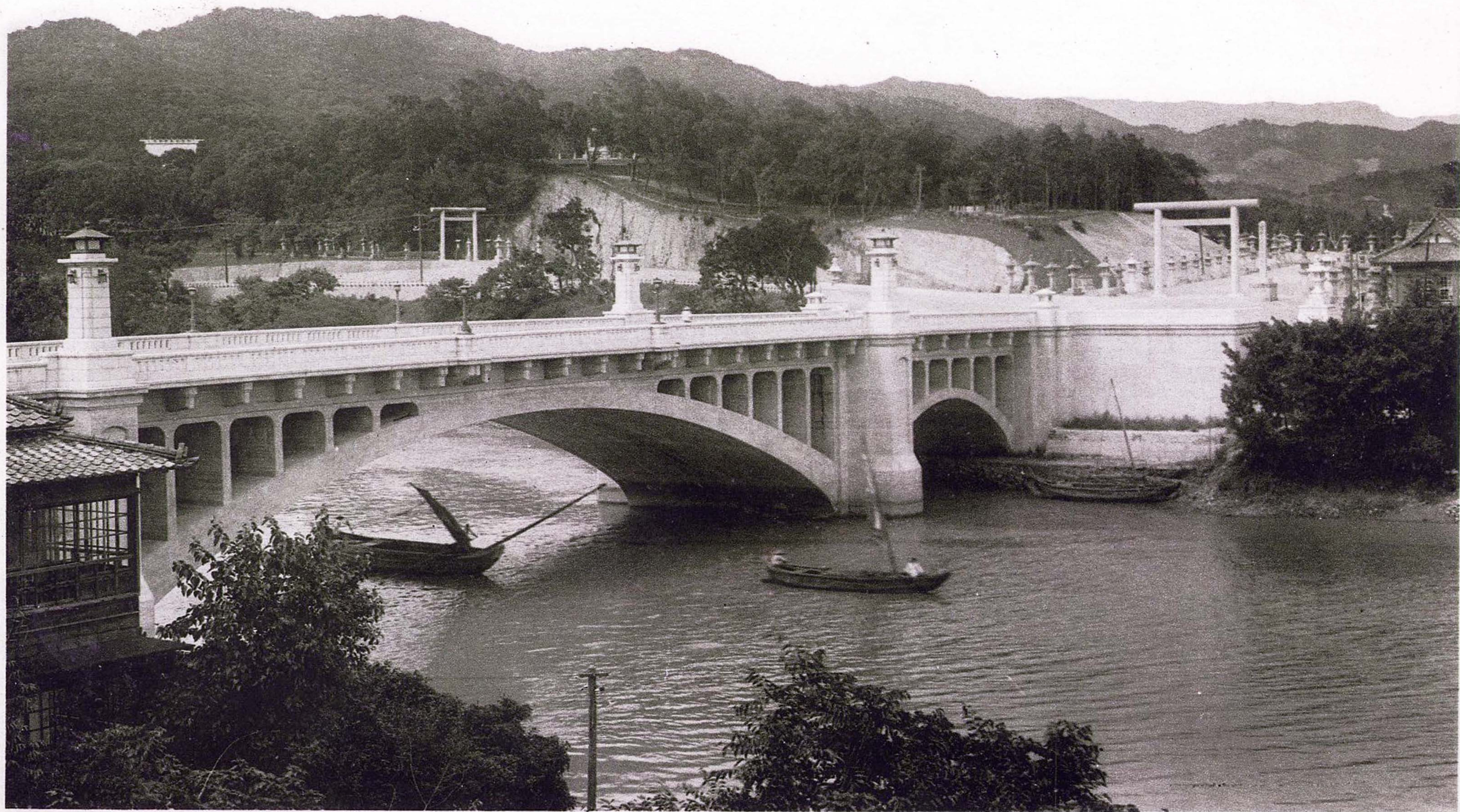




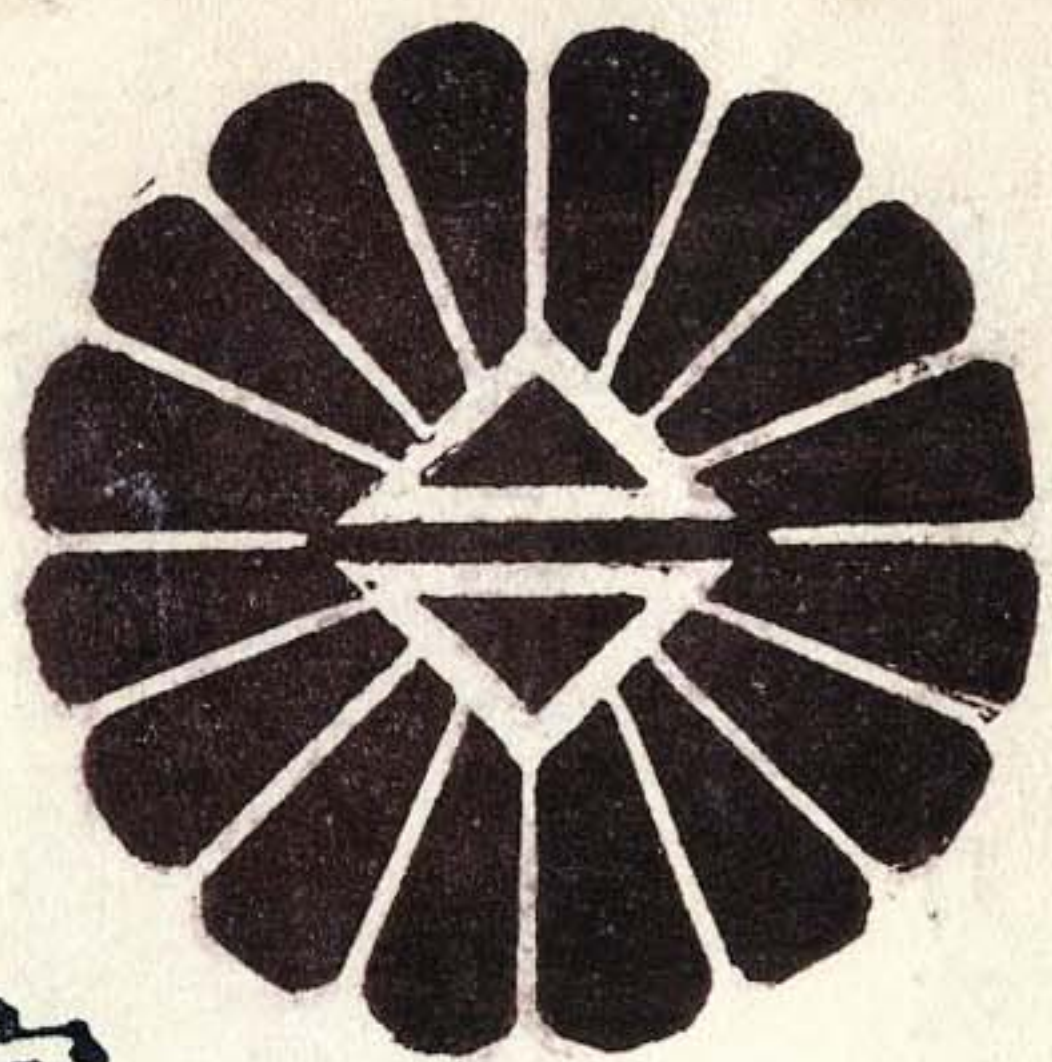
面正居鳥の一。社神湾臺社大幣官



官幣大社臺灣神社。拜殿、中門、本殿



橋治明前道參。社神灣臺社大幣官



官幣
大社

臺灣神社繪葉書

社務所發行

社誌の摘要

當神社は上世國土を經營し且つ跡を海外に垂れ給ひし大國魂命、大己貴命、少彥名命竝靖臺の役特に御偉勳あらせられし北白川宮能久親王殿下の四神を全島總鎮守の大神として崇奉し明治三十四年十月二十七日莊嚴なる鎮座式を行はせられき

神域劍潭山は臺北を距るここ一里許基隆川其の麓を繞り諸山相對し風光極めて明媚なる勝地とす

例祭は（毎年十月二十八日）國祭日に準し全島休暇し總督供進使として參向相成り參列員は在臺北文武高等官、

判任官總代、府評議會員、州市協議會員、民間各種總代等約參百餘人豫め府報を以て告知せらる祈年新嘗祭之に準す

毎月二十八日月次祭また總督、軍司令官を初め重もなる文官高等官及民間代表者式中拜を行ふを例せり

總督府崇敬の厚き此の如く神光彌益全島を照臨し給へる隨に島内官民相率るて景仰尊信の意を表する者年に其多きを加ふるは更なり内外人士新たに渡臺する者概して先づ神社に詣て敬意を表し然る後公私の本務に就くの風を爲し同時に本島人の社頭に參向するものまた年に増加し崇敬の狀恰も内地人と同じく先づ盟ひ嗽きて後社頭に禮を行ふの儀を馴致せるは最も喜ぶべき同化の現象なりとす左に最近五年度參拜人の數を擧げて大方の一覽に供す

年 度	内地人	本島人	外國人	生蕃人	合 計
昭和六年度	一八、〇七九人	六、五七九人	一七人	六七人	二四、八〇〇人
昭和七年度	一七、二五五人	八、三三九人	八三人	九〇三人	二五、八〇〇人
昭和八年度	二〇、二四四人	一六、九六八人	一八八人	一、〇七九人	三三、六八〇人
昭和九年度	一六、八四四人	一三、五九八人	一七四人	九四八人	三二、八八二八人
昭和十年度	二四、八五〇人	一五、八七八人	三三三人	八二二八人	四〇、〇八二八人